

# 2022年12月期 第3四半期 決算説明会

---

井関農機株式会社

2022年11月14日

1. 2022年12月期第3四半期 業績の概要
2. 国内外市場動向
3. 2022年12月期 業績予想
4. トピックス



# 1. 2022年12月期第3四半期 業績の概要

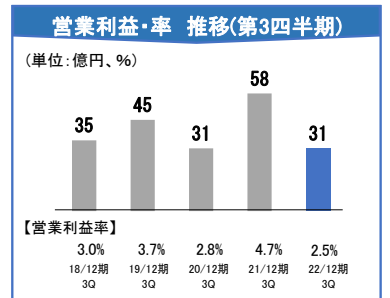
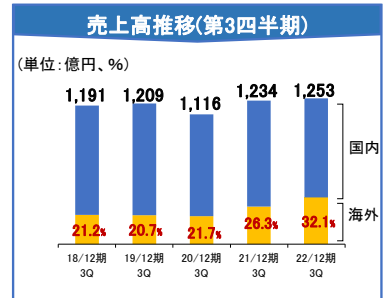


## <第3四半期業績>

### 海外好調

### 国内は補助金反動や米価低迷・資材価格高騰影響等で減

- 国内 : サプライチェーン混乱に伴う生産遅延  
米価低迷・資材価格高騰による購買意欲減退  
前期にあった経営継続補助金の反動
- 海外 : (北米) コンパクトトラクタ市場が調整局面に入るも、現地在庫レベル回復に向け当社出荷は続伸  
(欧州) ライフスタイルの変化を捉えコンシューマー向けを中心に販売好調  
景観整備向け需要も回復しプロ向け販売も増加  
ISEKIドイツの連結子会社化も増収寄与
- 収益 : 各地域で価格改定を実施も原材料価格高騰影響の全てをカバーするに至らず収益を圧迫



## <通期業績予想>

### 足許の状況等踏まえ修正

## (決算のポイント)

決算のポイントについては資料に記載の通り。

【凡例】 ✓ =市場環境    ➤ =当社事業環境

市場環境と当社事業環境	
<b>✓ 新型コロナウイルス感染症の影響</b>	
<全体>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ サプライチェーンの混乱(生産用部品調達遅れ等)</li> <li>➤ 原材料価格高騰</li> </ul>
<国内>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 展示会中止など営業活動に影響</li> <li>➤ 経営継続補助金の反動</li> </ul>
<海外>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 北米:コンパクトトラクタ市場が調整局面に入るも、現地在庫レベル回復に向け当社出荷は続伸</li> <li>➤ 欧州:ライフスタイルの変化に伴う需要増、プロ向け販売も回復</li> </ul>
<b>✓ 米価低迷、資材価格高騰</b>	
<国内>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 農家の購買意欲減退</li> </ul>
<b>✓ ロシアのウクライナへの侵攻</b>	
<全体>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 販売面:この地域での営業活動を行っていないため直接的な影響はない</li> <li>➤ 仕入面:サプライチェーンの混乱、原材料価格の更なる高騰懸念</li> </ul>
<b>✓ 円安の進行</b>	
<全体>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 営業利益での影響は軽微</li> </ul>
<b>✓ 原油等燃料価格高騰</b>	
<全体>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 物流費・操業費アップ</li> </ul>

(市場環境及び当社事業環境)

市場環境及び当社事業環境は資料に記載の通り。

# 連結業績の概要

(2022年1月1日～2022年9月30日)

(単位:億円、%)

	18/12期 3Q実績	19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	前年 同期比
売上高	1,191	1,209	1,116	1,234	1,253	+ 19
(国内)	939	959	874	909	850	△ 58
(海外)	252	249	241	324	402	+ 78
営業利益	35	45	31	58	31	△ 26
営業利益率	3.0%	3.7%	2.8%	4.7%	2.5%	△ 2.2%
経常利益	27	32	28	65	38	△ 26
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22	21	24	47	34	△ 12
為替平均 レート (円)	米ドル 109.4	109.6	107.8	107.8	124.9	+17.1
	ユーロ 131.5	123.2	120.6	129.6	133.9	+4.3

## (連結業績の概要)

### <売上高>

- ・前年同期比微増の1,253億円。
- ・国内減収、海外増収。

### <収益面>

- ・営業利益:前年同期比26億円減益の31億円。
- ・営業利益率:2.5%。

# 国内売上高

前年同期比  
▲58億円

サプライチェーン混乱に伴う生産遅延や米価低迷・資材価格高騰による購買意欲減退  
メンテナンス収入は維持

(単位:億円)		18/12期 3Q実績	19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	前年 同期比
農機 製品 関連	整地機	210	213	173	188	181	△ 6
	栽培機	74	80	64	72	65	△ 7
	収穫調製機	137	141	119	117	114	△ 2
	小計	422	434	357	378	361	△ 17
	作業機	160	171	152	179	152	△ 26
	部品	113	118	119	118	119	0
	修理収入	41	43	44	45	44	0
	小計	315	333	316	343	316	△ 26
	計	737	767	674	721	677	△ 43
	施設工事	49	40	56	36	32	△ 4
その他農業関連	151	152	143	151	140	△ 10	
合計	939	959	874	909	850	△ 58	

## 主な増減要因(前年同期比)

- ✓ 農機製品はサプライチェーン混乱に伴う生産遅延、米価低迷・資材価格高騰による購買意欲減退に加え、経営継続補助金の反動により減収
- ✓ 作業機は経営継続補助金の反動
- ✓ 部品、修理収入などのメンテナンス収入は前年同期を維持

## (国内売上高)

国内売上高:850億円

### ■前年同期比:△58億円

・農機製品:△17億円、作業機:△26億円。

ここ数年、作業機売上は増収を堅持していたが、経営継続補助金の反動に加え、一部の地域で補助事業の実行が遅れていることも影響。

・部品、修理収入などのメンテナンス収入は前年同期水準を維持。

# 海外売上高

前年同期比  
+78億円

北米、欧州を中心に増収  
ISEKIドイツ連結子会社化による増収(+20億円)

(単位:億円)	18/12期 3Q実績	19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	前年 同期比	うち 為替影響
北米	88	101	92	113	131	+ 17	+10
欧州	108	99	92	133	198	+ 65	+12
アジア	53	44	54	73	67	△ 6	+4
その他	2	3	2	3	5	+ 1	0
連結売上高 合計	252	249	241	324	402	+ 78	+26

## 主な増減要因(前年同期比)

- ✓ 北米：コンパクトトラクタ市場が調整局面に入るも、現地在庫レベル回復に向け当社出荷は続伸
- ✓ 欧州：ライフスタイルの変化を捉え、コンシューマー向けを中心に販売好調、景観整備向け需要も回復しプロ向け販売も増加  
加えて、ISEKIドイツの連結子会社化(+約20億円)もあり増収
- ✓ アジア：韓国向けの増加はあるも、中国向け半製品の出荷減などにより減収

## (海外売上高)

海外売上高: 402億円

### ■前年同期比: +78億円

#### (北米)

- ・コンパクトトラクタ市場は金融政策の変化等から調整局面を迎えるも、現地在庫レベル回復に向け当社出荷は引き続き増加。

#### (欧州)

- ・ライフスタイルの変化を捉え、コンシューマー向けを中心に販売好調。また、景観整備向け需要も回復しプロ向け販売も増加。加えて第3四半期からISEKIドイツを連結子会社化したことも寄与。

#### (アジア)

- ・韓国向けの増加はあるも、中国向け半製品の出荷減や前期にあったフィリピン向け入札がなくなったことなどにより減収。



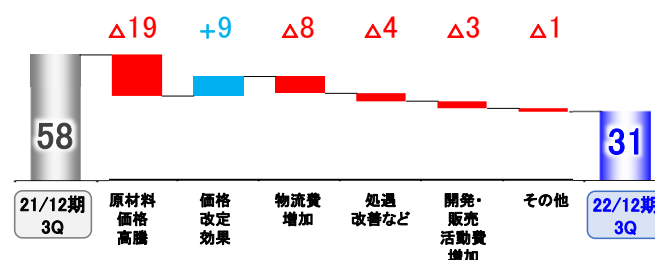
前年同期比  
▲26億円

各地域で価格改定実施も原材料価格高騰影響全てをカバーするに至らず  
収益を圧迫

(単位: 億円、%)

	18/12期 3Q実績	19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	前年 同期比
売上高	1,191	1,209	1,116	1,234	1,253	+ 19
売上総利益	353	358	331	372	372	0
売上総利益率	29.7%	29.6%	29.7%	30.1%	29.7%	△ 0.4%
販管費	317	312	299	313	341	+ 27
人件費	187	183	179	185	193	+ 8
その他経費	130	129	119	128	147	+ 18
営業利益	35	45	31	58	31	△ 26
営業利益率	3.0%	3.7%	2.8%	4.7%	2.5%	△ 2.2%

【営業利益増減内訳(前年同期比)】



【為替影響(億円)】

売上	原価	販管費	営業利益
+26	△22	△3	+1

## (営業利益)

営業利益: 31億円

### ■前年同期比: △26億円

- ・原材料価格高騰影響は19億円の収益圧迫要因。
- ・原材料価格高騰への対応として、販売価格の改定を行うも、現時点で効果は9億円と全てをカバーするに至らず。
- ・販管費では物流費の増加に加え人件費の増加などにより悪化。
- ・為替円安による影響は売上高で+26億円、営業利益で+1億円。

# 経常利益、四半期純利益

経常利益  
前年同期比  
▲26億円

前年同期にあった一過性の営業外収益の剥落や持分法による投資損失拡大はあるも  
為替差益の増加により営業利益と同様の減益幅

(単位:億円)	18/12期 3Q実績	19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	前年 同期比
営業利益	35	45	31	58	31	△ 26
金融収支	△5	△5	△5	△4	△5	0
その他営業外損益	△2	△6	1	11	12	0
経常利益	27	32	28	65	38	△ 26
特別利益	1	1	6	0	8	+ 7
特別損失	△1	△2	0	△2	△2	0
税前利益	27	31	34	63	44	△ 19
税、税調整額	△5	△10	△10	△15	△9	+ 6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22	21	24	47	34	△ 12

営業外損益増減内訳(前年同期比)	
為替差益	+7億円
受取和解金の剥落	△4億円
持分法による投資損失	△3億円

特別利益増減内訳(前年同期比)	
ISEKIドイツ連結子会社化影響	+7億円
(段階取得に係る差益)	(+5億円)
(負ののれん発生益)	(+2億円)

## (経常利益、四半期純利益)

- ・経常利益は、前年同期にあった一過性の営業外収益の剥落や持分法による投資損失の拡大があったものの、為替差益の増加がカバーし、減益幅としては営業利益と同額26億円減益の38億円。
- ・四半期純利益は、ISEKIドイツの連結子会社化により、段階取得に係る差益、負ののれん発生益の計上7億円、税金負担の減などにより12億円減益の34億円。

前年同期末比

**【棚卸資産】**

- ・商品及び製品：北米での現地調達部品不足による引き取り遅れやISEKIドイツ連結影響などにより増加
- ・仕掛品：サプライチェーン混乱により工場仕掛品が増加

(単位:億円)	21/9月末	22/9月末	前年同期末比		21/9月末	22/9月末	前年同期末比
現金	125	151	+ 26	仕入債務	371	420	+ 49
売上債権	313	331	+ 18	有利子負債	697	774	+ 76
棚卸資産	482	620	+ 137	(借入金)	(622)	(700)	(+77)
(商品及び製品)	(399)	(504)	(+104)	その他負債	188	203	+ 15
(仕掛品)	(70)	(100)	(+29)				
その他流動資産	42	42	0				
流動資産計	964	1,145	+ 181	負債合計	1,256	1,398	+ 141
有形固定資産	850	858	+ 7	純資産	677	725	+ 47
無形固定資産	22	24	+ 1	(利益剰余金)	(192)	(204)	(+12)
投資その他資産	96	95	△ 1				
固定資産計	970	978	+ 8				
資産合計	1,934	2,123	+ 189	負債純資産合計	1,934	2,123	+ 189

## (バランスシート)

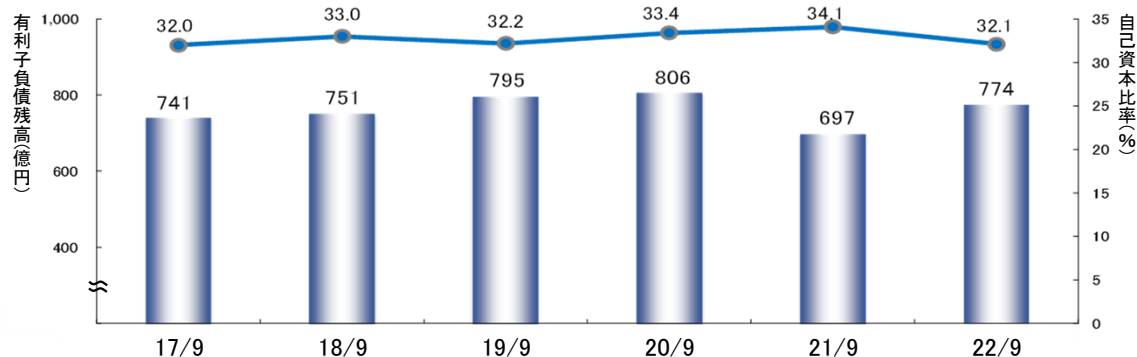
### ■棚卸資産:前年同期末比+137億円

- ・北米OEM先での現地調達部品不足による引き取り遅れやISEKIドイツの連結影響などにより商品および製品が増加。
- ・仕掛品については、サプライチェーン混乱影響により工場仕掛品が増加。

# 自己資本比率・有利子負債

有利子負債  
D/Eレシオ

有利子負債はISEKIドイツ連結子会社化もあり前年同期比増加も例年並みの水準  
D/Eレシオは1.07倍



借入金・社債	670	688	723	727	622	700
リース債務	70	63	71	79	74	74
有利子負債 計	741	751	795	806	697	774
D/Eレシオ	1.05倍	1.05倍	1.14倍	1.14倍	1.03倍	1.07倍

※D/Eレシオ=有利子負債/純資産 ※リース債務を含む

## (自己資本比率、有利子負債)

- ・9月は販売会社で秋商品の回収がまだ進んでおらず借入金が高止まりする時期。加えてISEKIドイツの連結子会社化もあり前年同期比では増加。
- ・D/Eレシオは1.07倍。

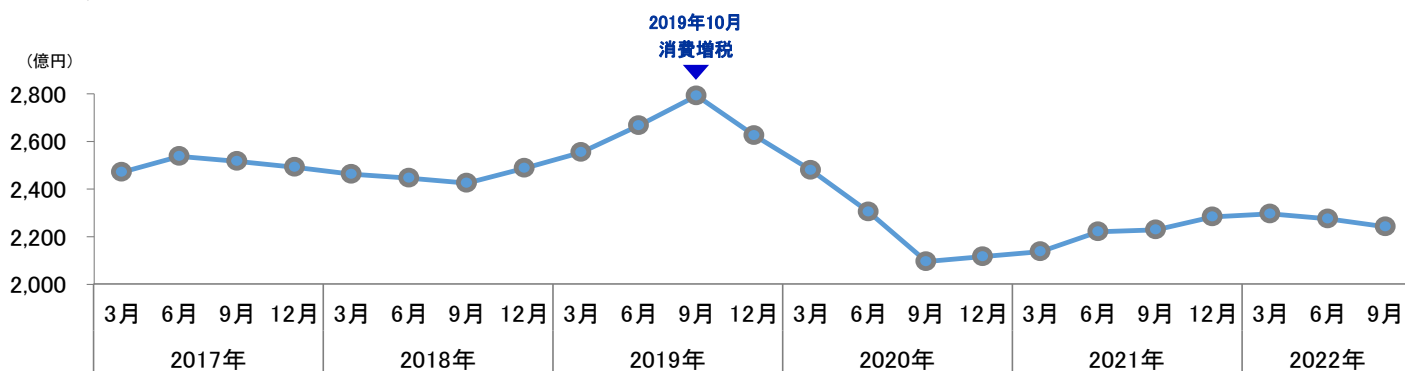
## 2. 国内外市場の動向



## 国内農機需要

経営継続補助金の反動や米価下落による購買意欲減退などにより弱含みで推移

■ 農機需要[業界出荷](主要9機種・移動年計)



※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、籾摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント  
出所:日農工出荷統計より当社推計

## (国内農機需要)

- ・2019年10月の消費増税前駆け込み需要が大きくなるとも、その後反動があり、国内農機需要は大きく減少。
- ・2020年10月以降は、経営継続補助金による需要の押し上げはあったものの、その反動、新型コロナウイルスや米価下落の影響、2022年に入り、肥料など資材費高騰等もあり、国内農機需要は弱含みで推移。

## ■ 令和5年度 農林水産関係予算概算要求 2兆6,808億円

【農機需要、売上に関係のある施策例】 ( )内は前年当初予算額

- ◆ みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業 80億円(35億円)
  - ✓ 内、スマート農業総合推進対策事業 39億円(14億円)
- ◆ みどりの食料システム戦略推進総合対策 30億円( 8億円)

## ■ 令和4年度 農林水産関係第2次補正予算 8,206億円

- ◆ 食料安全保障の強化 1,642億円
  - ✓ 内、肥料の国産化・安定供給確保対策 270億円
  - ✓ 内、畑地化促進事業 250億円
  - ✓ 内、畑作物産地形成促進事業 300億円

### (農政動向)

#### ■ 令和5年度予算概算要求 総額2兆6,808億円

- ・本年7月施行の「みどりの食料システム法」に基づき、生産力向上と持続性の両立を目指し、スマート農業への後押しが引き続き行われる。
- ・環境負荷低減への取組みも加速していくことなどから、ロボット農機・直進アシスト機能を搭載した機種・可変施肥田植機・アイガモロボなどの拡販を見込む。

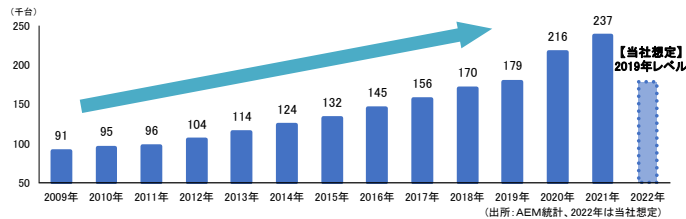
#### ■ 令和4年度農林水産関係第2次補正予算

- ・「食料安全保障」が焦点となっており、肥料の国産化に向けた取組みや、国内資源肥料の利用拡大のため機械導入が図られる。
- ・国産需要が高まる 麦・大豆・飼料作物・子実トウモロコシ等の畑作物の本格作付けに向けた機械の導入支援が織り込まれている。
- ・汎用コンバイン、トラクタ、作業機など、当社にとっても商機があると考えている。
- ・また物価高騰への影響緩和対策も実施されることから、需要回復に繋がることを期待。

## 北 米

### 1. コンパクトトラクタ市場の動向

<市場推移(1~12月)>



➢ 2022年/1-9月: 前年同期比 83%

### 2. AGCO社(OEM先)の状況

➢ コンパクトトラクタ実売台数(2022年/1-9月): 前年同期比 75%

### 3. 当社の出荷・受注状況

➢ 出荷・受注(2022年/1-12月): 前年同期比 96%

## 欧 州

### 1. 市場の動向

- ・ライフスタイルの変化により、コンシューマー向け需要は、引き続き堅調
- ・景観整備プロ向けは、物流網混乱による供給遅れが続き業界全体で流通在庫低水準も、需要の回復基調は昨年より継続

### 2. 現地の実売状況

実売台数(2022年/1-9月)

➢ 現地販売代理店 : 前年同期比 106%

✓ ISEKIフランス社は過去最高の売上を計上

### 3. 当社の出荷・受注状況

➢ 出荷・受注(2022/1-12月)

: 前年同期比 106%



## (北米)

### ■市場動向

- ・コンパクトトラクタクラス: 前年同期比83%。
- ・今期については、急激に伸長した20年・21年の勢いからの一服感はあるも、通期では2019年と同レベル程度を想定。

### ■当社の出荷・受注状況(1月~12月)

- ・前年同期比96%。
- ・現地の在庫レベルは適正より低いものの回復。

## (欧州)

### ■市場動向

- ・コンシューマー向け需要は堅調。
- ・プロ向け需要もコロナ禍前(2019年レベル)まで回復。

### ■現地の実売状況(1月~9月)

- ・前年同期比106%。流通在庫不足が続くなか受注は好調に推移。
- ・現地販売子会社のISEKIフランスでは過去最高の売上を計上。

### ■当社の出荷・受注状況(1月~12月)

- ・前年同期比106%。
- ・当社プレゼンスの高いプロ向けマーケットを中心に来期も好調と見ている。



## タイ

### 1. 市場の動向

水田向け：米価低迷、肥料など資材高騰等により停滞感  
 畑作向け：サトウキビやキャッサバなど堅調。作物の買取価格アップもあり農家の購買意欲増進

### 2. 現地販売会社[IST Farm Machinery]の状況

現地実売台数(2022年/1-9月)

➤ アセアン戦略トラクタ：前年同期比 77%

✓ 畑作向け商品を充実

・AGCO製大型トラクタに加え、TAFE製小型トラクタ投入

### 3. 当社の出荷・受注状況

➤ 出荷・受注(2022年/1-12月)：前年同期比 84%

## インドネシア・ミャンマー

### 1. 市場の動向

<インドネシア> 政府入札予算は縮小傾向

<ミャンマー> 国内情勢混乱の長期化

### 2. 当社の受注状況 (2022年/1-12月)

<インドネシア> 入札予算減少の中、受注獲得

<ミャンマー> 混乱長期化により営業活動は停滞

### 3. PT.井関インドネシア(生産子会社)の状況

(単位:台、億円)	2021年		2022年	
	実績	3Q実績	計画	3Q実績
生産台数	15,680	11,300	17,170	12,800
営業利益	3	2	3	3

## (タイ)

### ■市場動向

・コメ価格の低迷等により水田向けは停滞感も畑作向けは堅調。

### ■当社の出荷・受注状況(1月～12月)

・前年同期比84%。

・当社においても、水田向け機種苦戦も、畑作向け機種は前年を上回って推移。

・IST社では畑作向けとしてアグコ社製大型トラクタも取り扱っており、法人向け営業ルートも拡充を図っている。加えて、インドTAFE社製の畑作用小型トラクタの販売も開始。

・IST社では 今後も市場環境の変化にも対応できるよう、商品や販路の充実に取り組み、当社成長エンジンであるアセアン地域の中核拠点として、体制の強化を図っていく。

## (インドネシア)

・政府入札予算は減少傾向も、現地販売代理店ルタン社の受注は前年並みと堅調。

## (ミャンマー)

・国内情勢混乱の長期化により営業活動は停滞。

## (PT. 井関インドネシア(生産子会社))

・生産移管した欧州向け乗用芝刈機の生産も始まり前年を上回る。

・年間でも、計画達成見込み。

## 中国

### 1. 市場の動向

補助金配分遅れや米の取引価格の低迷により稲作市場停滞

◆中国 農機業界の動向：機種別 前年伸長率(台数) (単位:%)

	2020/1~8月	2021/1~8月	2022/1~8月
田植機(乗用)	133%	134%	94%
コンバイン(汎用、自脱)	113%	133%	96%
トラクタ(大中型)	132%	123%	110%

(出所)中国農業機械工業協会

### 2. 東風井関の状況(2022年/1-9月、現地実売台数)

- 乗用田植機 前年同期比 122%  
(現地OEM半製品含む " 67%)
- トラクタ、コンバイン " 124%

## 韓国・台湾

### 1. 市場の動向

- <韓国> 農業人口の減少や高齢化が進む中、大規模化に伴う大型・高性能農機需要の高まり
- <台湾> 補助金反動減で、トラクタ、コンバインが大幅減

### 2. 当社の出荷・受注状況 (2022年/1-12月)

- <韓国> トラクタ、田植機で大幅増加  
✓ 大型・高性能シリーズが高評価
- <台湾> 前年同期比 82%  
✓ 田植機、野菜移植機等の販売推進図る

## (中国)

### ■市場動向

- ・春先の補助金配分の遅れやコメ取引価格の低迷により稲作市場は停滞。  
田植機・コンバインは前年同期比減少。

### ■東風井関の状況

- ・乗用田植機、トラクタは前年を上回る。

## (韓国)

### ■市場動向

- ・日本同様、高齢化、農業人口不足が進むなか、農業の大規模化に伴う大型・高性能農機の需要が高まる。

### ■当社の出荷・受注状況(1~12月)

- ・大型・高性能シリーズが好調で、田植機・トラクタが大幅に増加。

### 3. 2022年12月期 業績予想



# 2022年12月期 連結業績予想



## 連結業績予想

**営業利益** : 価格改定も原材料価格高騰が想定以上  
**経常利益** : 為替差益の計上などにより前回予想と同額  
**当期純利益** : ISEKI ドイツ連結子会社化による特別利益の計上

※1 当初予想 : 2022年 2月15日公表予想  
 ※2 前回予想 : 2022年 8月10日公表予想  
 ※3 今回予想 : 2022年11月14日公表予想

(単位:億円)	18/12期 実績	19/12期 実績	20/12期 実績	21/12期 実績	22/12期			前期比	前回 予想比	
					※1 当初予想	※2 前回予想	※3 今回予想			
売上高	1,559	1,498	1,493	1,581	1,665	1,665	<b>1,665</b>	+ 83	—	
(国内)	1,228	1,177	1,159	1,173	1,190	1,128	<b>1,114</b>	△ 59	△ 14	
(海外)	331	321	333	407	475	537	<b>551</b>	+ 143	+ 14	
営業利益	31	27	20	41	47	47	<b>37</b>	△ 4	△ 10	
率	2.0%	1.8%	1.4%	2.6%	2.8%	2.8%	<b>2.2%</b>	△ 0.4%	△ 0.6%	
経常利益	26	11	17	46	46	46	<b>46</b>	0	—	
親会社株主に帰属する 当期純利益	10	7	△56	31	31	31	<b>35</b>	+ 3	+ 4	
為替平均レート (円)	米ドル	110.2	109.3	107.0	109.0	110.0	128.7	<b>132.2</b>	+23.2	+ 3.5
	ユーロ	130.9	121.6	121.5	129.8	130.0	135.8	<b>137.0</b>	+ 7.2	+ 1.2
期末配当(円)	30	30	0	30	30	30	<b>30</b>	—	—	

## (連結業績予想)

- ・第3四半期までの実績及び足元の状況等を踏まえ8月公表予想から修正。

### <売上高>

- ・海外では増加。一方、国内では市場が弱含みで推移していることから減少を見込み、売上高全体では 前回発表予想と同額の1,665億円。

### <営業利益>

- ・各地域で価格改定を実施しているものの、原材料価格の高騰影響を吸収しきれず、前回発表予想比10億円減少の37億円。

### <経常利益>

- ・為替差益の計上などにより、前回発表予想と同額の46億円。

### <当期純利益>

- ・ISEKIドイツの連結子会社化による特別利益の発生などにより、前回発表予想比4億円増加の35億円。

## 4. トピックス

## ■ 農業食料工学会「2022年度開発賞」を受賞

〈受賞内容〉 **業務用システム炊飯器 AR5シリーズの開発**



「食」関連 その他商品

【ISEKIコイン精米機】  
・自ら持ち込んだお米を  
その場で精米。

### 中食・外食産業の人手不足解消

#### 【システム炊飯】

炊飯作業の全工程を自動化

#### 【市場ニーズ対応】

遠隔管理システム、気泡洗米、洗米部乾燥機能  
などを搭載



(1釜仕様)

(2釜仕様)



(トピックス)

## ■ 業務用システム炊飯器の開発が農業食料工学会の「2022年度開発賞」を受賞

・農業機械とは異なり、一般の消費者の方に近い「食」分野の商品。業務用システム炊飯器は様々な業態で導入され、炊き立てのお米を皆様にご提供している。

- ✓ロボット技術・ICT等を活用したスマート農機
- ✓温室効果ガスの削減に寄与する  
環境対応商品や取り組み

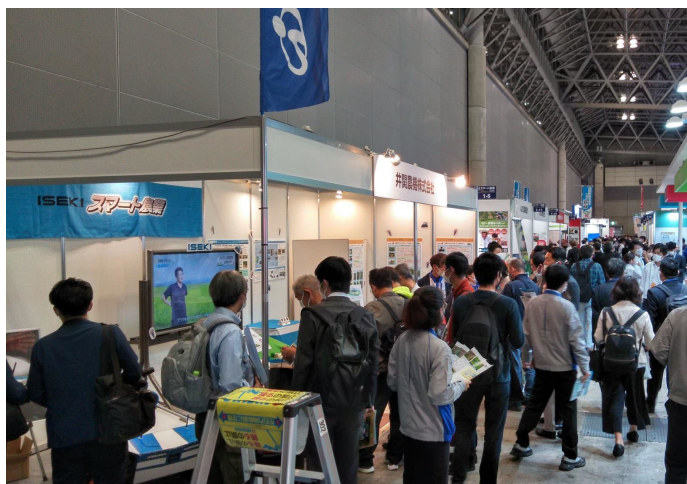


発表日時	2022年12月7日(水) 13:15~15:00 (予定)
コンセプト	脱炭素社会と循環型社会の実現へ — 変革 —
形式	・リアル開催:茨城県つくばみらい市 ・ホームページ、メディア発表

## (トピックス)

- 新商品発表会をつくばみらい事業所においてリアル開催
- ・ロボット技術・ICT等を活用したスマート農機、  
温室効果ガスの削減に寄与する環境対応商品や取り組みをご紹介予定。

「アイガモロボ」注目を集める！



■「農業WEEK」2022年10月12～14日、幕張メッセにて

実証結果の一例



有機農業の普及発展に向け「アイガモロボ」を  
—当社・有機米デザイン・農研機構が共同研究—

(トピックス)

■アイガモロボ注目を集める

- ・アイガモロボは来年から発売となるが、農業イベントでは、生産者、自治体、企業など多くのお客様から注目されている。
- ・本年は200か所以上で実証が行われ、概ね高評価を得ている。
- ・農研機構(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)とも共同研究を行う。



## 「電動製品」など新商品を発表！



■ ドイツ「ガラバオ展示会」・フランス「サロンベール展示会」にて 2022年9月

(トピックス)

### ■ 電動製品など新商品を発表

- ・ドイツ、フランスで景観整備業界では最大級の展示会で新商品の紹介や電動市場への参入をアピール。
- ・新商品に対するディーラーの反応は非常にポジティブで、特に当社の電動製品開発取り組みへの期待のコメントを多くいただいた。

- ・本資料は、情報提供を目的として作成しており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、潜在的リスクや不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化等により実際の結果と必ずしも一致するものではありません。
- ・ご利用に際しては、ご自身の判断をお願い致します。

本資料に掲載している業績予想や目標数値に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。



未来の  
ために、  
いま選ぼう。

井関グループは、  
環境省による地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を  
促す国民運動である【COOL CHOICE】の取組みに賛同しています。  
「賢い選択」の提案として「エコ商品」など  
環境に配慮した商品の開発普及を推進しています。

食から日本を考える。

**NIPPON  
FOOD  
SHIFT**